



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

リビア：トリポリの仏国大使館に対する爆弾テロ

3月23日、リビアのトリポリにある仏国大使館前で、自動車に詰まれた爆弾が爆発した。早朝で、まだ大使館職員は出勤しておらず、仏国人警備員2名と近所の家の少女1人が負傷したと報道されている。死者はいない模様。今のところ、犯行声明は出ていない。仏国のオランド大統領は、同テロを非難し、ファビウス外相をリビアに派遣した。リビアの仏国系学校や機関は、臨時閉鎖された。

政変後、治安が安定していないといわれるリビアであるが、外国大使館に対する爆弾テロは、初めてである。外国公館に対する攻撃としては、2012年9月に東部のベンガジの米国領事館が襲撃され、大使を含む4人が死亡している。中東域内で、仏国大使館が攻撃対象になるのは極めてめずらしい。中東調査会のデータによると、2000年以降、東地中海・北アフリカ地域で、仏国公館が攻撃されたのは、2006年2月に、預言者ムハンマドの風刺漫画がデンマークの新聞に掲載された際、ヨルダン川西岸のナブルスにある仏国文化センターに手榴弾が投げ込まれた事件があるだけである。

(中島主席研究員)